

始める前のお願い

このパワーポイントに使われる子どもの写真は

東京家政大学ナースリールームと一般家庭の

許可を得て使用しています。

写真の撮影や保存はご遠慮ください。

2021年11月10日神奈川県私立幼稚園連合会

今求められる乳児保育

1. 子どもの人権と保育者の関わり

井桁 容子

乳幼児教育実践研究家



◆人はなぜ学ぶ必要があるのか？

⇒ 人間の脳が勝手にパターン化、勝手にデフォルメする癖があるから

直感からくる誤謬を見直すため（思い込み・決めつけ）
直感が把握しづらい現象へイマジネーションを働かせるため
しなやかな思考ができるため

⇒ 知ることの大切さ

直感的、本能的、経験主義に終わらせずに注意深く考える
物事をよく見る、他者の話に耳を傾ける



自分が正しいとは限らない（自己批判・謙虚さ）

コロナ禍の保育と子どもの心

・子どもたちの生活の変化と影響

Cedep (東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター)

2020年「新型コロナウイルス感染症流行に伴う乳幼児の成育環境の変化に関する緊急調査」速報版 (結果の要点) VOL. 1

国立成育医療研究センター

マスクをして保育をすることについて

<心理学的見解>

遠藤利彦（東京大学認知心理学者） × 井桁

子どもの文化学校企画対談より

- ・ 子どもは**顔の上半分をみる**（至近距離では特に）
- ・ ヒトの目は他者に観られ、**心を読まれるための道具**
- ・ 食への影響→**口元よりも感情伝染が問題**
- ・ 言葉の遅れへの心配？

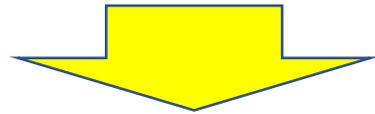
一人一人が安心できる
環境の保障がなければ
子どもの
創造性や意欲、学ぶ力は
発揮されない



保育者の口調や動きについて

言葉によるコミュニケーションは**全体の数%**

声色、視線、仕草、表情、口調、身振り



無意識にしてしまうので、**本音が表れやすい**

正しい子ども理解・これからの保育のあり方

開一夫 氏（東京大学大学院総合文化研究科教授）によると

◆エドテック（education technology）による研究結果

- ・ 医科学と考え方と同じに、診断、処置、予後というように
テーラーメイドの学習支援、個への対応が中学、高校生でも
重要（答えが同じでも考え方ややり方が違うため）
- ・ 心の育ちに着目
- ・ 道徳性は、生まれながらに持っている
- ・ 子どもが面白い、不思議と思っていることを邪魔しない
⇒ 幼いころから、物理的に不思議なことに気づいている
- ・ 抑制を教えることよりも見る力を育てる

コミュニケーション力

**単純化、平板化した言葉のやり取りは
コミュニケーション力を育て損ねる**

「かして」 「いいよ」
「ごめんね」 「いいよ」
「手はお膝」 「お口チャック」
「壁ぺったん」 「おすわりポン」

自分の気持ちを押し殺す
自分に嘘をつく
状況判断をしない
指示待ち

廊下で

泣いている子がある。涙は拭いてやる。
泣いてはいけないという。

なぜ泣くのと尋ねる。弱虫ねえという。

……随分いろいろのことは
いいもし、してやりもするが、
ただ一つしてやらないことがある。

泣かすにはいられない心もちへの共感で
ある

お世話になる先生、お手数をかける先生。
それは有り難い先生である。

しかし、有り難い先生よりも、
もっとほしいのは**うれしい先生**である。

そのうれしい先生は

その時々的心もちに

共感してくれる先生である。

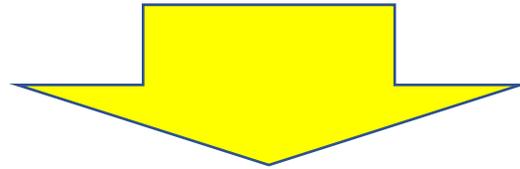
やさしさは、自発的なもの
やさしさは、優しくされて育つ

生活の中で、

どれくらい子どもの目を見て

関わっていますか？

相手を知ろうとするとき
分かりあいたいとき
分かりあえたとき
必ず相手の目を見る



心がつながるための原点

「ダメでしょ」派

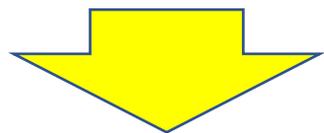
子どもは、何もわかっていない

「いいね」派

子どもの行為には、訳がある

1, 2歳児期の

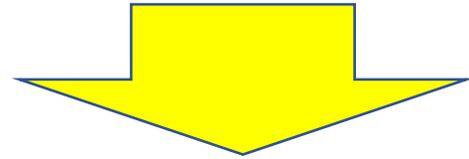
「イヤイヤ期」



「イヤと言える期」

「わかってもらえない期」

分かってもらえる

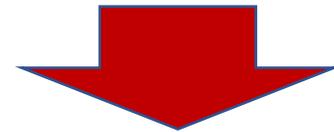


他者の気持ちを分かろうとする

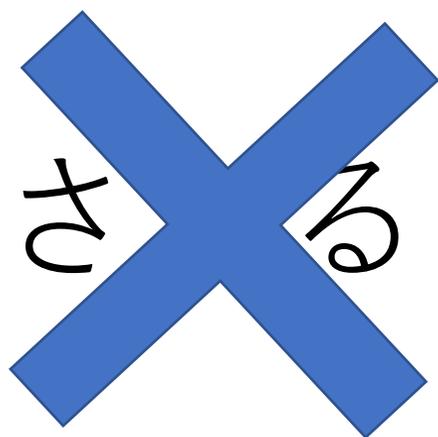


何に見とれているのか気づくか・・・

子どもの状況にお構いなしに、
後ろから抱き上げて連れていく？



学ぶ意欲・生きる意欲
の育ちに関わってくる



触れる

厚生労働省 令和2年

「不適切保育に関する対応について」の調査研究報告書

<https://cancerscan.jp/wp-content/uploads/2021/04/b9c5d99d037d61636e378a8085f87882.pdf>

不適切な保育の行為類型：不適切な保育の具体的な行為類型としては、例えば、次のようなものが考えられる。

- ① 子ども一人一人の人格を尊重しない関わり
- ② 物事を強要するような関わり・脅迫的な言葉がけ
- ③ 罰を与える・乱暴な関わり
- ④ 子ども一人一人の育ちや家庭環境への配慮に欠ける関わり
- ⑤ 差別的な関わり



<http://papi110204.pixnet.net/album>

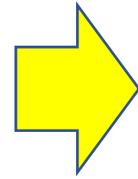


花屋さんは、一つ一つの花の特性を知っている専門家

保育者は、こども一人一人の特性を知っている専門家

大人の成長

「ダメダメ期」



「いいね期」

「保育アカデミー」佐伯胖 氏（心理学者）×井桁との対談より

D

N

D



人とのつながり、
興味の範囲、思考が
広がる

◆◆ こんな大人（親・保育者・教師）が少なくない◆◆

結果を急ぐ

待てない

成果主義、失敗を恐れる

子どもや他者を信頼できない

頑張らないと許されない

みんなと同じでないと不安

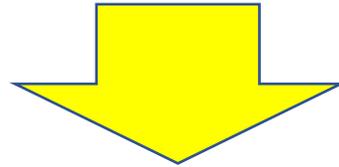
人間関係のフラット化

若者の自殺が世界で一番

私たちが願う人間像

「折れない心を持つ

情緒が安定した幸せな大人」



逆境から立ち直る力（レジリエンス）

どちらがレジリエンスがある？

自分の人生は、

将棋の差し手 or **将棋の駒**

自立した人とはどんな人？

「フォーカシングイリュージョン」

ダニエル・カーネマン

(アメリカの心理学者・行動経済学者)

(ノーベル経済学賞受賞)

「○○すれば幸せになるはず」というようなある特定の状態に
自分がいれば幸せになれると思い込み。
その状態が自分が幸せになれるかどうかの分岐点であると
信じてしまう人間の偏向性

思い込みから生じる幻想

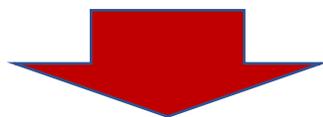
古いみかたを自覚する

子ども観・・・子どもは無能で受け身的存在

子育て観・・・ペアレンティング（親による育児）

保育観・・・みんな同じことができるように

教育観・・・教えてさせてできるようにする



パラダイムシフト（価値観の変容）

リフレーミング（枠組みの変容）

トランスフォーミング（メタ認知）

アンラーン（学びほぐし）の必要性



子どもが安心と安全の中で
伸び伸びと暮らせるために

保育者が今、

できること

すべきこと

してはいけないこと

保育者にもアタッチメントの保障

⇒ ボウルビィ : イギリスの児童精神科医が提唱

- ◆ ネガティブな感情の時に、身体的な意味でも心理的な意味でも、特定の人にくっつきたいと強く願う欲求、または、くっつくようとする行動の傾向
- ◆ 心理的にはいつでもつながっている安心感と確信
安心感の輪が徐々に広がる



自律的な個人の発達を促す



「基本的信頼感」が育ち意欲がわく

廊下で

泣いている子がある。涙は拭いてやる。
泣いてはいけないという。

なぜ泣くのと尋ねる。弱虫ねえという。

……随分いろいろのことは
いいもし、してやりもするが、
ただ一つしてやらないことがある。

泣かすにはいられない心もちへの共感で
ある

お世話になる先生、お手数をかける先生。
それは有り難い先生である。

しかし、有り難い先生よりも、
もっとほしいのは**うれしい先生**である。

そのうれしい先生は

その時々的心もちに

共感してくれる先生である。

そのときどきの気持ちに

共感してくれる

うれしい先生

がいる環境で

子どもの心は育つ

ていねいに共感されて

育った子どもは

他者への**共感力に優れ**

コミュニケーション力が

豊かに育つ

厚生労働省 令和2年

「不適切保育に関する対応について」の調査研究報告書

<https://cancerscan.jp/wp-content/uploads/2021/04/b9c5d99d037d61636e378a8085f87882.pdf>

不適切な保育の行為類型：不適切な保育の具体的な行為類型としては、例えば、次のようなものが考えられる。

- ① 子ども一人一人の人格を尊重しない関わり
- ② 物事を強要するような関わり・脅迫的な言葉がけ
- ③ 罰を与える・乱暴な関わり
- ④ 子ども一人一人の育ちや家庭環境への配慮に欠ける関わり
- ⑤ 差別的な関わり

新保育指針 総則

2. 養護に関する基本的事項

(2) 養護に関わるねらい及び内容

ア 生命の保持

(ア) ねらい

③一人一人の子どもが、**生理的欲求が、十分に満たされる**ようにする

イ 情緒の安定

(ア) ねらい

①一人一人の子どもが、**安定感をもって過ごせる**ようにする。

②一人一人の子どもが、**自分の気持ちを安心して表す**ことができるようにする

③一人一人の子どもが、**周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ち**が育まれていくようにする

④一人一人の子どもが**くつろいで共にすごし、心身の疲れが癒される**ようにする

生活の中の関わり
の質の重要性
保育は集団で束ねることではない

一人一人

と

1 対 1



そこにいる全ての子ども一人残らず
「アタッチメント」の保障

0 1 2 歳児の生理的な欲求への対応

★自分の体の状態を分けることが大切な課題

食 ・ ・ ・ 様々な味に出会う時期
個人差が大きい

(乳児反射の消失・咀嚼力・歯・味覚・運動量)

* 「保育所における食事の提供ガイドライン」厚生労働省

睡眠 ・ ・ ・ 心身の成長に重要
個人差、日によって異なる
(自律神経・運動量・体調など)

◆乳幼児の『食』を科学的根拠で理解する

乳児に備わっている味覚
なぜ子どもは野菜が苦手？
嫌いなものを無理に食べることの意味

『おいしく味わう体のしくみ 子どもに豊かな味覚を』

山本隆著 めばえ社

『授乳・離乳の支援ガイド 実践の手引き』

母子衛生研究会

『保育保健における食育実践の手引き』

日本保育園保健協議会

『保育所における食の提供ガイドライン』

厚生労働省

アタッチメントの視点から見ると

「情緒的利用可能性」が重要

敏感性 → 敏感過ぎると過干渉、先回り
経験 → 経験だけに捉われる危険

子どもの権利



「主観的確信」

倉橋惣三



「うれしい先生」

井桁の造語です

「doingの保育」

形や出来栄を意識した保育

「beingの保育」

人としてのありかたを意識した保育

未来を見据えて
「doingの保育」から
「beingの保育」へ

2021年
8月29日(日)

13時30分～16時00分
(開場13時15分)



[シンポジスト]



汐見 稔幸
教育学者



井桁容子
乳幼児教育研究家

[コーディネーター]



堀 科
東京家政大学
家政学部 准教授

保育や教育、子育て観の中にある

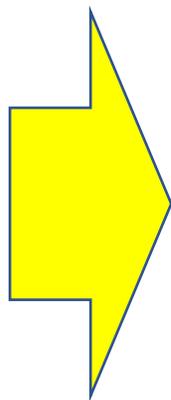
「フォーカシングイリュージョン」に気づく

doingの保育

比べる

同一性の重視

結果、成果



beingの保育

◆ 比べない

◆ 個性の尊重

◆ 意欲、満足感

第16回
保育の質を考えあう
シンポジウム



オンライン

「子ども」「保育」の
おもしろさと
不思議を語る

見逃し配信あり!

2021

11/14
SUN

主催：保育の質を考えあうシンポジウム実行委員会

時 間 13時30分～16時00分
(開場13時15分)
(終了後に2週間程度の見逃し配信をいたします。)

会 場 Zoomウェビナー
配信ツールとしてZoomウェビナーを使用します。Zoom
アプリのダウンロードを推奨します。Zoomウェビナーリ
ンクは開催日の約3～4日前にご案内します。

参加費 2,000円

お申込み 以下のURLかQRコードからPeatixチケットをご購入くださ
い。(チケット購入にはPeatixのアカウントが必要になります。
事前にPeatixにご登録ください。)

<https://peatix.com/event/3051602/>

[シンポジスト]



無藤 隆



井桁容子

[コーディネーター]



箕輪 潤子

お申し込みQRコード

